夕張川かわら版 夕歩道

「夕歩道」とは
夕張川と流域住民をつなぐ
川の道です

平成20年 盛冬

其の十

「夕張川にサケは遡上するか」
栗山町でシンポジウム開催

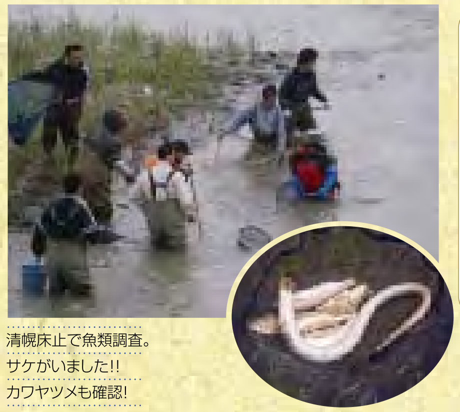
○日時：平成19年10月19日（金）～20日（土）
○場所：栗山町いきものの里ふれあいプラザ
○主催：栗山町いきものの里づくり推進協議会

シンポジウム 1日目

古い文献（＊注1）には、サケやマスを獲ったという記述がありますが、果たしてあの夕張川に、サケは上ってくるのでしょうか。専門家の話によると、現状では、産卵できる場所が限られ、簡単ではないようです。シンポジウムでは、流域住民、自治体、河川管理者が一体となって取り組むことが大切だということを確認しました。

道立水産孵化場の河村博さんによる講演。

シンポジウム 2日目



清幌床止で魚類調査。
サケがいました!!
カワヤツメも確認!

2日目は、あいにくの雨でしたが、頭首工や床止工など河川構造物や阿野呂川合流点を見学しました。清幌床止では、投網等を使った魚類調査（＊注2）がおこなわれ、なんとサケも確認しました。

また、阿野呂川の合流点は、産卵環境として期待できることもわかりました。

阿野呂川合流点の見学。
マス類の産卵適地のようです。

問 夕張川クイズ

次の２枚の写真は夕張川で見られるカワセミとショウドウツバメのくちばしのアップです。ＡとＢのうち、カワセミのくちばしはどちらでしょう？

※答えは４面最後です。

関連情報 1

川を活かしたまちづくりを進めている恵庭市の漁川（国道36号・恵庭大橋の下など）には、サケが産卵している場所があり、市民の間で話題になっています。

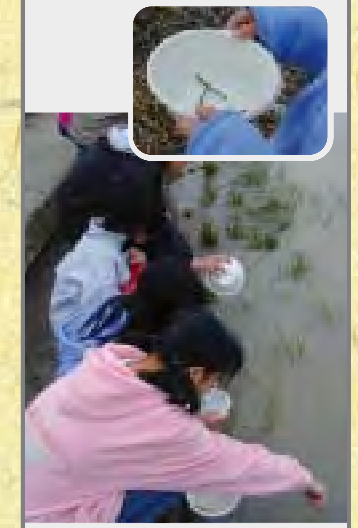
撮影場所：恵庭大橋下（恵庭市）
写真提供：流域生態研究所

関連情報 2

シンポジウムに先立って清幌床止で行われた魚類調査（＊注２）では、サケが１匹、確認されました。

関連情報 3

南幌小学校では、清幌床止で、毎年サケの稚魚放流を行っています。



＊注１　由仁町や栗山町の文献資料には、サケ、マスを獲ったという記録があります。次回夕歩道で紹介します。

＊注２　魚類調査は、北海道知事から「特別採捕許可証」をとって実施しています。

夕張川の生き物たち ワカサギ

冬の風物詩ともいえるワカサギ釣り。この"ワカサギ"は、南幌町の清幌床止や、夕張川の旧川にもいるみたいですよ！

ワカサギ

もともと生息地は、太平洋側は千葉県以北・日本海側では島根県以北の北日本でしたが、日本各地の湖などで放流され、定着しています。体長は15㎝ほどで、適応力が高く、ある程度汚濁した湖にも棲めます。

ワカサギ釣り

凍りついた湖面に穴をあけて釣り上げるもので、"穴釣り"とも呼ばれています。よくその場で天ぷらにして食べる風景をテレビ番組などで見ますが、成長した親魚では骨が硬くなってしまいます。

小ぶりなものは骨も柔らかく、丸ごと食べることができます。

川と生活

『治水』と呼ばれた街

大正11年、夕張川を千歳川から切り離し、直接石狩川に合流させてスムーズな流れとする"夕張川新水路"工事が始まりました。この工事は国の直轄事業であったため、工事従事者への労働賃金は高かったといわれており、各地から労働者が多く飯場宿舎に集まってきました。

こうしたことから、現在の清幌一帯では、パチンコ店、床屋、雑貨酒屋、小間物屋に菓子屋、遊女屋が一斉に開業して市街地を形成し、その賑わいは日夜を問わなかったほどでした。

夕張川新水路通水。昭和11年（「石狩川治水史」より）

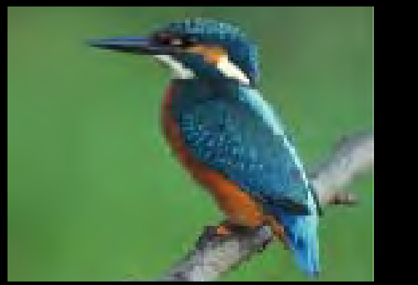
また、工事の安全を祈願する義経神社の建立や工場などが建設され、本町（当時・幌向村）よりも先に電気が通っていた工場かいわいは、「治水」と呼ばれ羨望の的になっていました。

（参考　夕張川治水史略）

（地図：陸地測量部発行５万分の１地形図「江別(部分)」「恵庭(部分)」）

夕張川掘削 人力によるトロッコでの土砂運搬作業
（写真：石狩川開発建設部札幌河川事務所蔵）

問の答え A



カワセミのくちばしは、川に飛び込んでえさを獲るために、水や空気の抵抗を減らす鋭い四角すいの形をしています。

お知らせ

川の学習手引書に関する意見交換会が開かれました。

夕張川の川の学習手引書『たんけん夕張川学習ノート』は、今年学校の体験学習等を中心に実際に川で使われました。今回は、さらに見やすく、使いやすくするための意見交換が行われました。

《会議のまとめ》
・川の学習手引書は、概ね好評価を得ています。
・今後は、川の学習手引書の使用環境を整えていくことも大事になります。
・使用者からいただいたご意見を基に、川の学習手引書の改訂をしていきます。
・テーマ、内容を検討して、続編の必要性などを今後、意見交換していきます。

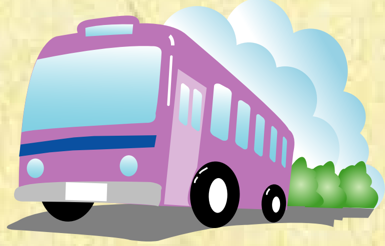
発行：江別河川事務所内 夕張川流域会議事務局
〒067-0074 江別市高砂町5 電話 011-382-2358 FAX.011-382-3857 http://www.is.hkd.mlit.go.jp/08isiken/02genba/23ebetu/index.html

本誌は再生紙を使っています。

第13回 夕張川流域会議

～現地見学会が開催されました～

○日時：平成19年11月15日（木）
○場所：夕張川下流域
○意見交換場所：南幌町ふるさと物産館「ビューロー」



今回は、清幌床止及び、平成17年に策定された石狩川水系夕張川河川整備計画(以下、整備計画)に基づく、河川整備箇所等を見学しました。

あいにくの雨で、ほとんどがバスの中からの見学となりましたが、委員のみなさんは真剣に説明に耳を傾けていました。

現地見学会

1 清幌床止

清幌床止の魚道の見学と、魚類の生息環境の説明がありました。清幌床止に設置された魚道は、魚類の遡上に対して十分な機能が発揮されていないことから、夕張川流域会議で対策等が話し合われています。

清幌床止の魚道が機能していない理由の一つとして、魚道を流れる水が多く、魚道内に泡が大量に発生しているためだと考えられています。

2 なんぽろリバーサイド公園

平成16年の植樹場所を見学しました。植樹した苗の中には、生存競争に勝てなかったり、誤って刈られたりした苗もありましたが、残りの苗には生育が見られました。

生育が著しい樹種（ズミ・ノリウツギ）

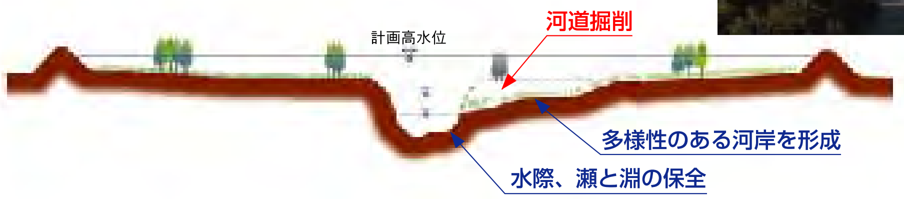
3 栗幌橋

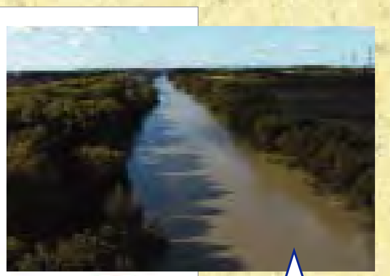
栗幌橋より下流を望み、夕張川下流における河道の現況を見学しました。夕張川の下流域では、今後、整備計画に基づき河道掘削が実施されます。

【夕張川下流区間における整備のイメージ】

夕張川下流においては、平水位より上の河川敷を掘削し、緩やかな斜面を創出します。これにより、多様性のある河岸の形成や、水際、瀬と淵の保全を行います。

凡例
- 現況河道
- 整備計画河道
- 保全
- 除去





栗幌橋より望む夕張川下流の様子。河道は緩やかに蛇行しているのがわかります。

4 夕張川右岸

湿生植物群生地及び、周辺の泥炭採取後の状況変化を見学する予定でしたが、悪天候のためバスを降りての見学はできませんでしたが、意見交換会にて説明がありました。

○湿生植物群生地

ハンノキ林の中の湿地にサワシロギク、タチキボウシなどの郷土種が生息しています。流域会議では保全を望む意見が出ている箇所です。

○泥炭採取後の状況変化

泥炭採取が終わった部分から植物群落の移り変わりが始まっています。現在、この辺りでは、「ヨシ」が優先的となっています。

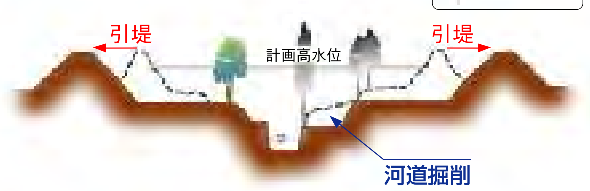
5 幌向川西5号橋

現在、堤防整備（引堤）が進められている箇所を見学しました。

【幌向川下流区間における整備のイメージ】

幌向川周辺は、とても地盤が弱く、現在の堤防を拡幅すると、堤防の安定性を確保できないため、民家側に新たに堤防を作る"引堤"を実施しています。

凡例
- 現況河道
- 整備計画河道
- 保全
- 除去



以上で現地見学会は終了です。

意見交換会

現地見学会が終了した後は、南幌町ふるさと物産館「ビューロー」で、委員からの感想や、今後の河川整備に対する要望などが話し合われました。

委員からの主な意見

- ○夕張川にワンドのような止水域を設けてほしい。
- ○湿性植物の保全・再生方法を検討してほしい。
- ○夕張川から石狩川への土砂流出を防ぎたい。
- ○大洪水で苦労してきた経験から、治水への不安が残る。これからも調査、研究を深めていただきたい。
- ○魚類の産卵場所に適している場所に重点をおいて、今後の川づくりを進めたい。
- ○水の流れが自然に川をつくっていけるように、水にある程度の自由を与える川づくりが重要である。